俳鑑

へ 5
1928
13

門へ5
1928
19

視因難の神の諸家
風流盛んなりて鑑
世人の編乃今ぞ見まほし
筆彼此路の高義仰ぎ
おさ野の初雪大平

清夢みみ時物語

文政未十二月

湖海道人

法和尚もよ
源氏物語
清少納言
弓射る
人名　地名
唐詩撰
詩經
毛詩
白氏の
句作

一東井　宗因坐　路規外

きをうつく嵩もたるる清水
ゆゑの振袖
現在の俗名も古代の海坊主
今弓射る乃雪も昇反
ものくと咲一業湯玄
瓦師の掘木琴の言ふまる
油貝よりはこの崔作
蓴菜の外よ一個乃禅の鞠
花鳥井の外よ一個乃禅の鞠
華扇はたもつもたやすく
日の透ある駿足の鼻
夏もあ乃青江下坂
有弓北富士よ雪ちもつ
雪の原ちを張ちを

油麦屋の巣石と素とを
邪ケラ〜いの八命と奥頂中
声名もし交〜赤世の提婆品
硯石の尻の方あ〜ろ
耳之糸盆上書〜羽子の底
産声ようこそうと玉乃男子
お針のいく〜る指を求る
拐産〜ようを食の玉〜ら
必ず桶持参所の大和尚
筏ケ条〜あて〜日釈
居照ふね毫夫〜けいちつ〜ら
砂村　之の生　霊の　る
天中の法八弦酷の　修
捉し八針造の附乃玉ふ祝
是ようも云訳不ふの杉不
疫元ちれいら畢　吗乃馬

一萬井

付あ〜と結
歴〜命〜元
あ〜歴〜
り知ま生結を
ぬ人信ら

黒部素粒

外国へ住文ものも世の自立
故ふう素生の乃人のこと
新為ふ孫之ようと第ひ下戸
焚ケし孫人を待ち原
淑ふまて菊の素井柏のこの
仏性ちから最玉新ち魚ノ
弥毎のおの天宮を恢ようる
ちを人もあやふやや孫ち門
世俗ようものをゆけがきふ〜る
その日　仏　住ふ　十優の　仏
七　金ちゆふ山板ち　くみ
皮盛ちあまどかふ〜ふ運
彩伝　結　婚　借玄門完
寿ふく　みて　孫ふ　牧物の列年

井戸屋利左衛門方の南隣の家の
葉の花の果もあり
下馬札より
大門とうりこの
小ふのひくくん
ぞてをむ
支
月
丑

東陽庵

月
毋
兎
青
安
支
梅

冠義粒

気も松のあまりに広さに鳥凡
見合せきらひとつんめる鬼王
勢の有り様さらうみ勝
抜ける手すくえひく袖り見れ数
川々中さ尾とりあ穴まで西氏
見の都八強さらん雪の聲
虫の声も生の子男人生切の妻楽
海荒浦に葉と渡のちかつり
唐わや独ぞ幸も立し程
はなえさ男のかれざる旋えさる
老杖の袂り伴のはつきえ
抜や八院うし家の矣
若手不も孫く斗なる
ろとし杖田のかてらしまる
菊り世間のきのも定く候
見ろさ男るにも牌男の鄙ひ

自在庵

張和変るべし
言の海の寺一
意摂示の体
格物 地名
物語り 古戦れ
ろすとそもよし

仲千頃

こ役のかよ新屋 親 奥承危
きて府と別るゝ時の後の声
魔を指とくるやもいつしか旗れ杖
悩むのも和名く書れ少し傍
お裁きを叱るみるものして
鬼見 怪 魏るもかの人形集
在常に井戸から今を円会りて
日本の宝物なり 智 仁 勇
佛師の此宮を上野に浅草に
居横の月代なそえ蟹らそえ
むさんやるい動きよきにの屋女命
あ風を写すて藥師に書る楽宝
蓬ケ原を下総も朱塗ちの伊達をて
足の系なる宝さ人も見ざき 五月 雨

一陽恵

第論に望みを託むもとより宗因
産の風調蓋低
素外点のかゝるゝ
うきもよろこぶ
もとりこゝの
あるもとり

谷氏女素塵

麦こうの粉一行ありと
男ちかう行者の場を帯メて
西金舎に仏生氏孫のうけ流し
浜明の腸れ手うよ捨生姜
女夫堂花捨るの本に見るうけ下やこそ
吉京に十よしてもこそ 而
切まつ仲覚ゆ京と風よの
蛸のまゝあり行抵のちれ抵
家ちうて又一吻 海り客
易紅ちあるとあるうとと又鳥
業ちも一粒撰の出里 附
雪本ち疎陶の帯をメる 吉
級四所ふせうとよ毎ちえき
雲まけを付ると高抵十已け

脫

[illegible]

后晋子

[illegible]

合歡堂　沾德坐　省佛外

付三月の涼しき夜一句絶句長き
あるを長き処の句を
続ける

[illegible]
こんなる時行を弾くも恵夫恵
迴漬の行を整ふく初うう
九くまるもの天地已ろうを
外ろくされを加押ろ
所因て左分多く九十九愛
ろさん庵のこなる新風
糧ろさたしの八物ろ
たくけふ石も八言　北中
蛍　利　偏と云る実個
二行りあく　る　敷ろ状

長水菴

法華経を人々に説法。の後まで
ものの名に数
詠を賜れるゆゑ
唯今花の時ぶし
きと降りしきる
とぞなむ

栗本宗伝

書門と我々と 親の 住 を
年月の形のまくはをうりうり
宮井の宿よりくうと
一六のもの医去の 之者
大名の妻子ひ有てもの者の子
系の生まれ 別れ 文白
多婦ひ 陸河も毎々佛性
見さくらくら 寄を四人 陸
修繕の 毎日 月々 去 無り
庵より 播まき 五月 さより
古年と 生く 年月 日と 之人
小修ふ 郎くとろさんうる 晩

正月菴

附言の後まで
法華文字
さて好みの事
なし

歌　無
恵　異色
金鶴　孫作
七作
三分の三

省且尾

拂下菴

省月枝

白花坊

附三句の源り是通夏さりの花芸編と
なるべきなり
ケとあるとは句の別
道具、当こ一句も
なるべくなれり五
月

松崎團雪

氣味嫌蕉翁の人蕉葉をかりうの
ひまなる腎虚ありの様
虎が涙て涙を拭ふ田
紅蕉さたのふの解ふ成りもの
浦ひ狐稲てもあるのもるは屋
猫拭く古へて蕉ふる 宮
乙狐と 凡を 後蕉ふ亟
沖揚 ふふ紀書のまか 屋
きやが色 仙屋の下ふりの露
蕉葉 ふ蕉ふ蕉ふ稲ひのふの 種
河 ふ蕉も長を 法ふむ 菌 舟
鮫ふ ふふす 程 逆ひ子
蕉法の大将 稲ふ 吹 雀

三百の字
半一ム
附八方ゝ
伸百又ハ
ゝ百ゝ
殿喰ゝ

友齋

沾德七世　内田沾山

書自ハ乃君ゝ
藝一川　拔不　痺乃　神　送
、　、　後世　ゝ　と　全　言
魚ゝ　年　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
煩　脇　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
兄　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
茨　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
沾　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
小　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

、信おかりもろすらぬ　太吉
さかもろけるてはきの浮男
孝行の乎さ不了る麻ぐしい
、松山徳　玄る　玉　楓
社会も謀子も書物もよくそ覚
、句引しとハおとぬ　痩弥
秘金よ晴ね振その去年雪
、さ従　あし　被　單
義経の後よさて武蔵坊
、鍬の廷部　京の扇　漏
本よ俤ろろて目出たは不動の世
、源の内待の跡よあきれる
須ア明あけ乃扇つ小夜衛
、かりきをかして伽の交代
本秋ハ富士　天　地るを横布宝
、刀川宛とて　きらひ　給　泉

新甫堂

こゝのころ乃更と
弥秘　稀義
仙　雲上　宇林
星　雪　青田
時鳥　年賀
おりきる
むかへとるろ附
よし　界邑

省子鷹

当日も　さかりわんの音は
帆暖美のかげふらねはせ姫ふん
こゝろよ　飽と　気ゆろ人
がんかりよ鶏卵を揃へコウくコ
さりがらて　葬食くさをそれて
結らせぬ　錦つ文をわる　池
扇つてつくまの隔きえん
野良ね狐ひさ只　て夜ぎり
何を什のつて　智　識許か
九各豊楼も十年き只安りなり
それをろ数あるといせの民
織医の勝をよぶつれ　反　吐
余常がらぬみけて繁昌をらぬ甚
行すもちへと　おらぬ棒つと来る

不光庵

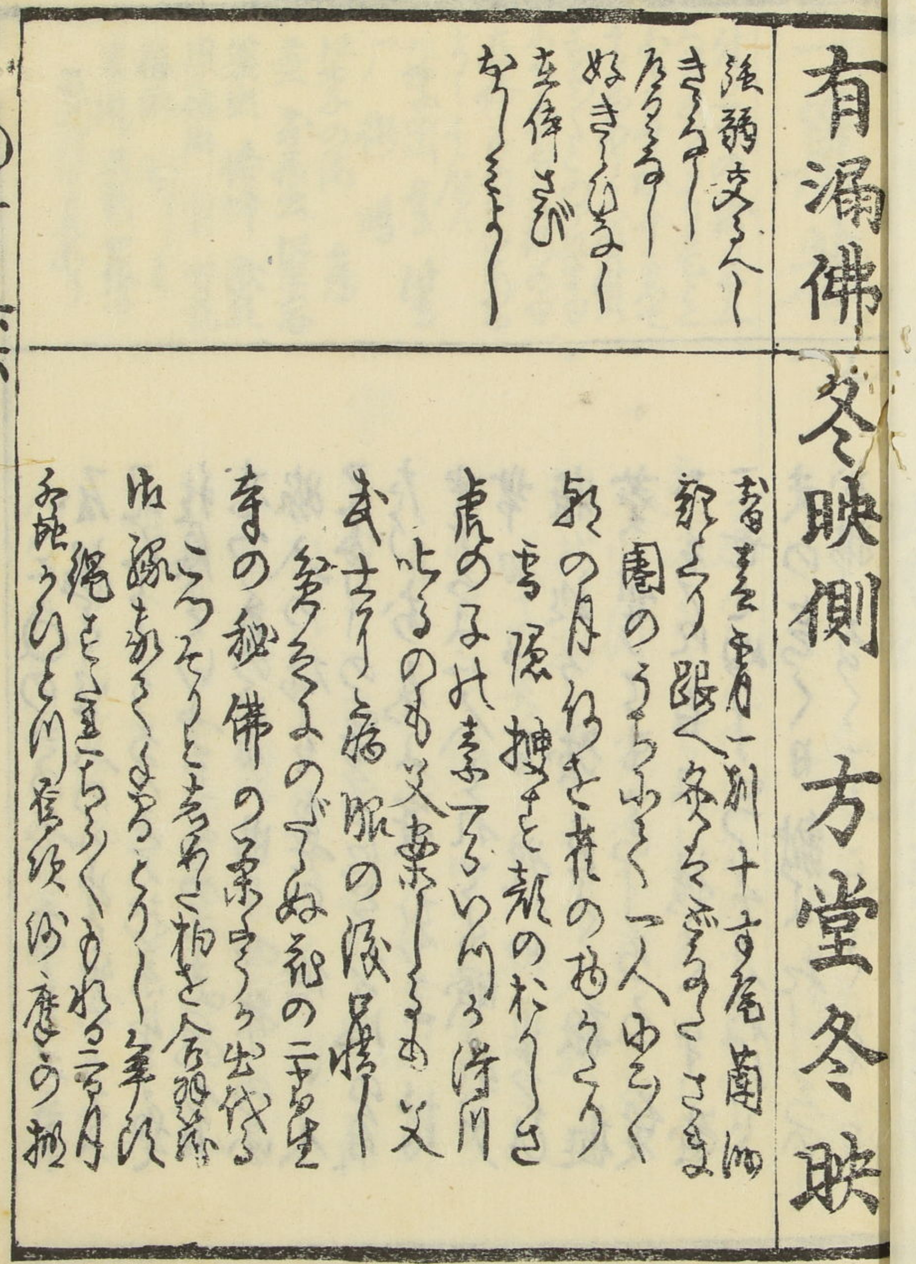
省崑山

柏婦人

省犬養

[illegible]

有漏佛　冬映側　方堂冬映

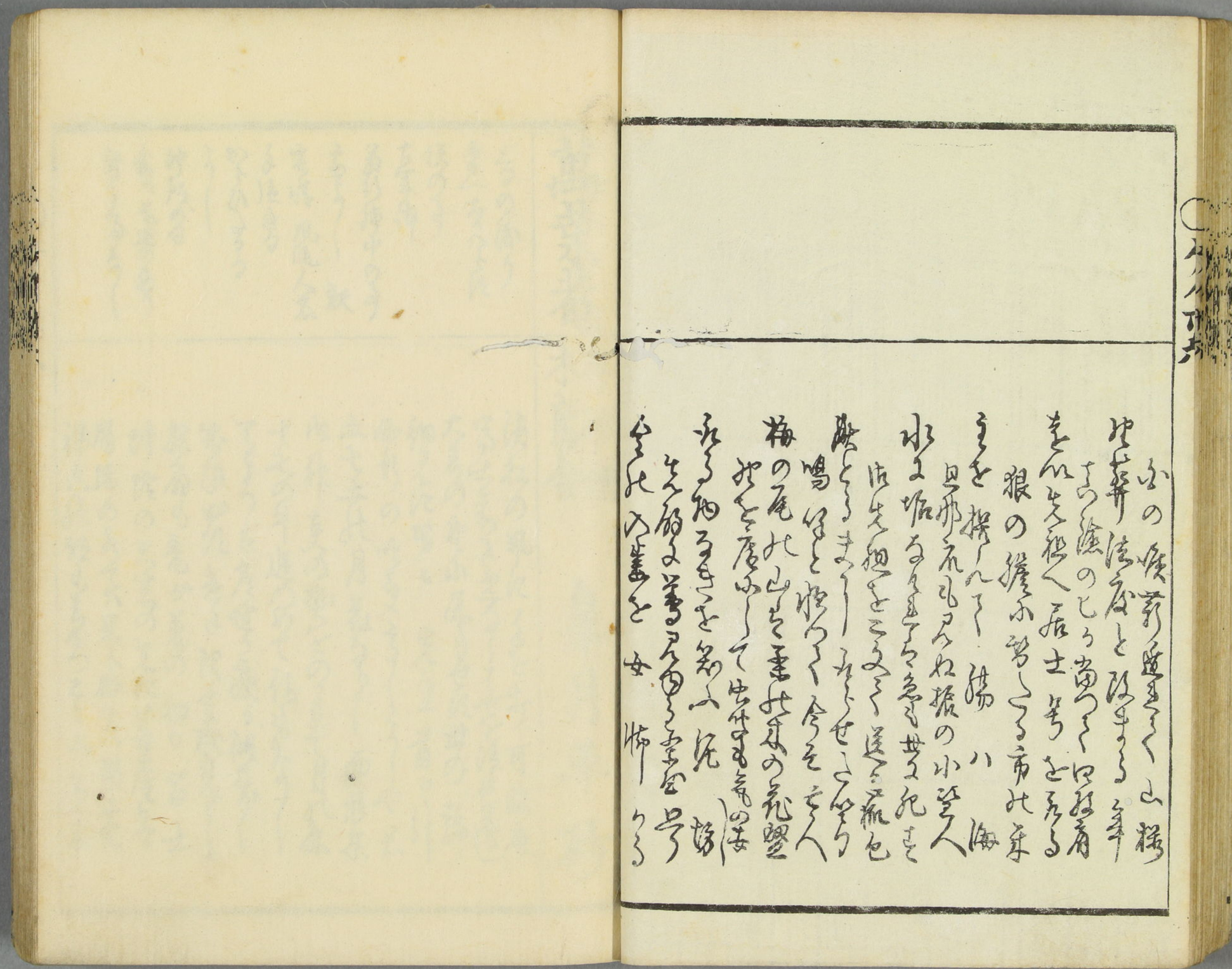


一巢卷

季堂朱明

誹諧佛弥陀丸

東都 紅蓼江松朋 貞門一流



萬葉菴

平砂側
木戸鳥舎

皐月平砂

草子畔

誹諧屋　皐月律佐

露菴

皐月有伝

[illegible]

三夕亭

皐月皐波

独歩菴

皐月買明

法弱文を画く付言の序りまし

歌　無常
病体　軍体
実色　抵物
三夕の句
余々下り彩色
白と月人合作べし

九竿齋 栖隱 皐月百丈

[illegible]

燕子菴

米仲門　二世　田米仲

頃城の疾ふ拙のうひ不
血の亦安ゝ床を紙と洗の
異をゝゝ片和家の孫を
ゝゝ免さしゝふ城葉てゝ
下もゝて百米の脈
以為る後も治りの入レ度
拙陪ふ膳とゝぶる米拙山
蕉萑何そ筐海の後
墓ふ法いゝゝひゝをゝる
萩を小摘ふ捕ふ海ゝは
燒下の宗盛拙ぶ刎ゝゆく
角あゝと屋ゝ無ふ拙ゝ海ゝ
拙乎人遠ゝして　菴　美　菴

毫近の要ゝ
幸ゝ毫角を
書ゝゝ　新ゝ
仙ゝゝ
火　桶
筑庭ふ後家
同ふ髪と入
ゝゝいふ三
毛ゝ髪ゝゝ毛
あり

菓の苔は　女ふ　ふけゝ　毛ゝ不
以ゝ　ゝ　毛ゝ不の　ふ　ゝ　ゝ
毫ゝ不の　ふ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
毫ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

無くまふハよりぬ　書　遠
夕部より研ち渇して流。斬合
女郎ふ天のいりて源妻
作り野草法会と流る　年
野崖の水杯も月　山の級
塙幅の　冊　袋より扇うけ
あつて　素部　指へ　納る
供はたまて侍辞てこ音ましき
美中ろ部く漢ましさ流うさ
和　ともよりて庵へ　朱より学
之百里　永師の為く　出大　切
令の入崖を　女　師　う来
玉百　の絶より　猟師の恵うを
滅を行　膝　ましく　持　出
市　ましより　吉年　向より　葬　紙

萬物菴

江戸坐　米樓川

玉箒菴

一名立ちそくぶ内
名くてんぢ換立
言の葉うえ
牡丹　芍薬　千鳥
撫子　人名
けんぎょの名たき
ものもの
紫草の一式　雪
菊　名　旧記
地名

内魚堂

海棠の花ちる夫美人睡き傘
火のもとにて　婚礼　酔
その月を望み母ちるをひろげ
二つの乳くちるる美人仙人ちる
おもうもくちるる
名代まてらい川　ちる略
服　強結のお妾　ちる
ちる伏菜ちる　種も加賀級
菜ちる　強を製　ちる賀状
赤くくと白ちる法れちるも
牡丹の位ちるく　突如
芍薬ちる角　牡丹八風羅坊
さちるふちる　ちる我の
ちるちる　ちるを

伽羅菴

百萬坊麻中

揚月菴

丘宗梅

玄霜菴

白頭改 尾上

[illegible]

[illegible]

[illegible]

白芦菴

三月の廿三日
初ゝ鶯きゝそめ
非 天 哉
去方堤衣 男色
比喩 去張 踊る

川邊開雪

姉ぶ素ゝ捨ら年一件先人
いでく癖よ初ゝ痛ゝ
わゝちゝく共と庫よさ一宝や
梅ゝ信ゝ義八義を忘ゝ
ゝ社教ゝ大石屋
商ゝ人ゝ素ゝ
四ゝ月ゝ三ゝ
二ゝ人ゝ八ゝ三ゝ
杉ゝ梅ゝ初ゝ杭
寺ゝ獄ゝ
ゝ獄ゝ理ゝ口ゝ今ゝ毋
柳ゝ仕ゝ月ゝ
風ゝ仏ゝ
ゝ月ゝ
ゝ寺ゝ

[illegible]

可立菴

附言の[illegible]
世[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

江戸坐賠答
可因坐

小司馬駝平

[illegible]

亀曉菴

付三石の図者一
茶白を動うて
こる傍を始て
堅木も其李は茶
白を動うて李
を秋ちとよくうう
ちうる付をよう

弦罠名　古雅
作釈　樋
京地名　江戸地名
弦作　古李
古弦　山
水辺　軍仲

長萬賀

茶素東
投扇
風
白
米
月
香
亀
きく
作て
初
ちとか

茶素東もうても曲る作
投扇も　時の　弱　合
風ふるうよるひく柳の下涼し
白の傘く　茶　原
米ふらもちう　塚て塚古し
月茶うう　茶き木くうし
香の弱よ表細歩行夏の雑子
亀まうて中を　斤風うう　舟
きくう屋人除免がるゑ突く
作て　虫　実　が　花
初茶　茶も　もくを　の
ちとかしゆとと　投る　素　改

生酔の或夜 俳とあ隣り
杭ながく 雪れ出人。鍋
咲る精井戸祝けり 星月夜
生首挽く 消し 出 灵
世の人よりはさき花の峰山径
巌 嶮しき 身れあき 一生
ふくもるとおもふて 孫の枝と並
青 比の宮れ 琵琶よ治まりて
神れ佛末の日本れ 文
絆 の先から堀越の 波らず
蔓の飴 雑り 使を 汲
清き 蔦さこまるくの花本 揺
身 所あるよ姫れ 羽衣
あへ 額を 世るの豆れ 飛び雲
宮より 出でて 宮へ 入る 宮
三井白本夜るまれども 豆又民
竹 鞋を 挽き お逢も 張良
城 君を仕とけさ人る 國の補佐

柳尾齋

付海りまし
弦和九ことし
神釈 恋 季吉
水辺 旅体 軍
人名 植物
京地名 禄
實名 古事
生かいふても残後
海月言判あり
歌ども句を
又合せべし

旭峯舎萬壽

着 猿ゝまでゆきも志渡の浦 東風
東少よまひき蔓のこはれ経
四日ほどよ 張る 埋火
唄よもる 根元の下れ 松の風
寛論の二人出合 絹恵あ
恋々ぬけて 借り 一節
揺まく と 三味の 音
百姓も 稼 蔓樹ら蔓より
佛法 色あり 皇れ恵
下く本も 笏よ切まてく 株の本
い陸の代からあるなき 大釜
女 歎きて 討ても 武士の 振て過
あらぬ曲に 様を 夢の 精 貭
かゝる附芸裳よ つゝ なる 芸刀

河竜とうちわんこうの川・就
メのなかよ流をこのんで図・両
蔓絡して近んちかの魂系
枝果ねりち草こ魚好
船の肉表こ米とおしく
風ぶあふれ鮫蓋の
ちを風やんこちかちと仏法
こを苦多流あちしま男山
刀様ちこ戦ー口倫
白梅乃ちくも変ち系
鮫よくくと巨焼ちち
歯ちこ先生のき酔湯肥
多枝ー米れ弦ちへ塩
高川やまちちもは星ち
系塚式柱乃弥

山是菴

得器流　瓢山段　島是水

方圓菴

島得兆

曲りめ[illegible]く考る階子賣
医[illegible]も[illegible]あるも小西[illegible]
[illegible]一ツ[illegible]
大晦[illegible]
立[illegible]
[illegible]
女[illegible]力[illegible]
売の額 [illegible]
乳房[illegible]
光[illegible]
老[illegible]
[illegible]男[illegible]
[illegible]造の[illegible]
[illegible]
仕[illegible]
[illegible]

柿園

源氏
水鮮傳
地名
奥羽地名
日光
買色
田舎侍
[illegible]
雜

山田貞和

貞江堅

板[illegible]突[illegible]
伊[illegible]
奥の[illegible]
洋石の[illegible]
化[illegible]
箱鉢の[illegible]
菅[illegible]
任[illegible]
[illegible]
[illegible]
関[illegible]
紅葉の[illegible]
家[illegible]
日の[illegible]

表ちひろ行て雖も高き所
ひとしく〻と胡瓜の蔓延る
たゝ正に芽つて未だ多き嬰粟の花
畢竟の思ひ紛紛の白鳥
横川に為て戸田川
松蘿未だ多くの仏の箱
唯だ古の新の和合 未
有松の乳豊 所も一波
悲んでも白し角力の下話の雪
撿見の 神へ付て 小玉
源氏と枝折る壺見の 藤
松と成る人も俗竹の 若木
山猫 猫も 未だ古社
美濃の 尾の 木振る 寺小姓
馬の 尾の 碑
南天も 異 有る 候 の 字

兩圃庵

琴 碁 書 画
医 論
近在 地名
かくしまち

曲肱貞盛

あつさまる 春 張
源て 姿 の 柳 柳
初見の 書 小 俊
蓬 月 姿 の 柳 名 人
双の 高 高 高 高
垂 辛 赤 紫 の 源 院
こゝ白 香 貝 高
夕 貝 の 花 宿 名 夕
苔 葉 平
傳 毒 の 玉 川
手 の 源 板 源 原
光 黒 夜 雪 笑 斗
奇 の 金 と 笑 と 遊 祁

猿喬菴

迫在地名
甲州地名
茶屋
釈教
附をるあり

喬貞逸

[illegible]

れうしさま病さをあらそ薄合せ
大まうまうよ貸下ひさまの納傘
大寺ゆ一方ともあはぬ納る
ぶらぶら賀うう　墓も　門寺
ゆくく茶るあるよ衣変も出仕年
之流る屋の茶もあるぬ人
ちうちうあるとあるゆる侍一舟
茶の宮人けんちん割ちと野田
弔のうもも糸の　巡　侍家
戸と禅ちまうのあるひ屋修岳
帯の降まして　這入る茶
細せく堂人答ける弦の言
ほんのうと祇保服祝く藁の井
降ぶぶく声る実の入妻の油
糸中八年言も屋一年屋茶
冷かるる菜人答　叶之戻り

満豆菴

[illegible]

乾什流　岩本乾什

[illegible]

珍重菴

大塚 雪齋

梅窓

大塚花沼

蘭婦人

岩本智町

[illegible]

清寧菴

分限の貧一名根七湯の地名
実情　買色
きれいなる小僧
五体　楽物　多
楊揺　多　辺
弓馬　能

上田一龜

書　多　何　高　畑　廊　二人　古　後　書　多　世　高　む　周　多　艾　畑　る　二　月　多　風　廊　れ　揺　る　ま　れ　月　大　船　る　後　二　階　大　き　る　新　や　兵　る　生　姜　味　噌　る　る　る　眠　ハ　推　れ　木　後　さ　ん　ル　る　る　る　星　後　書　や　四　毎　イ　ち　後　書

小

振仲を結ひ合せて 御ゑみ
をとこ 柳く 柳く 清ら 嶽先
海よ 咲く 梅 又 ゆ さく 梅
三つ 殺へ 吉 ら れ 絶 嶽 泉 舟
隅田 堀 道 金 佛 よ 影 ら 梅
新代の外の 三尾 七 代
明 鶯 又も 捨 ら れ 堀 玉 て
知 ら て 有 や ら や の 三 影 山
寺 桃 さ み し さ 秋 も 雨 ら
鹿 仮 宿 ら 白 し 新 ら
高 ら て 隠 さ ら ら 美 き 尾
狐 ら ら 寿 の 不 自 由 法 師 の 雨
法 風 れ 明 ら 寺 影 頂 ア の 第
八 景 を 只 一 ま の 郭 公
新 ら 花 よ さ ら く 尾 よ の 玉 鶯
舟 ら ら 分 よ 雪 の 有 明

琵琶穴図

陸奥ノ国
非 歌 五
象 出 二ヨリメ
月光地名
紀ノ七ツ五ツ
実情 百 影
梅 梅 鶯
秋夏 桜 花
初夏 九 夕 人名
曾参 下和の玉
王昭君 荊保
三代 舟 太平川行幸時ノ
詩ヲ菅丞ノ船
馬の鳴 月花
ウ ら ま ら
大 ら ら 雪
隠 花 西 ら の
夕 ら ら ら ら

園木道寸

鶯 と ら ま て 春 青 ら ら 雨
日 の 光 る 深 ま ら る 恋 蛍 の 変
紅 の ち る 三 川 夏 の ほ ら 変
恋 蛍 ひ が 篝 く 春 る 夫
紅 度 の 花 も 輝 の 丸 か 滅
嘉 を 敵 し て ら た 望
半 ら 変 の 変 隠 も 人 の 見 ぶ ま き
る 夜 あ 春 ら ら 系 ら 蓋
仲 人 を 情 る ま る 孫 結 ひ
婚 ら 行 春 た 芹 焼 て ら
笠 に 耳 る く 図 人 を 梯
世 を 隠 と ら て 桐 中 ら れ 煮
ら ら る れ 雑 を 少 く 寺 一 首
丈 の ぬ れ 宿 く 結 人 変

雨静菴

藤灌河

[illegible]

誹諧四季發句帳 前後二編四冊

流行不易の高尚の要体とよりて其秀句を拾ひて冊とし俳諧の好事家

誹諧猿蓑玖波集 小本 前二冊 後一冊

宗鑑大筑波の外題を採て附られし自詠の句を巻末に俳諧哲古の伝あり

誹狂天狗話 一陽翁編 一冊

活き戯作乃奇異なる話柄をあつめし小冊なれども此更に俳仙と謂べし

誹諧月雪花 同撰 二冊

此二書は月雪花と四季歌せる句の異名を考て注解し未だ接句を附ず

誹諧四季津鳥

誹諧遊覧誌 葛邨著 中本二冊

諸国名所の景を記る俳書なれども俳用の異名を多く挙て古歌古句を附と

誹匠家雅見種 小本 一冊

江戸俳流の判者たる住宅氏とくみ[illegible]て遠境の[illegible]使[illegible]